
いつもの様に・・・そしてさようなら・・・

七瀬 郁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつもの様に・・・そしてさようなら・・・

【Nコード】

N0359A

【作者名】

七瀬 郁

【あらすじ】

このお話はワタシ（作者）が見た夢（寝ている時の）がコナンの最終話（予想）でした、これはそれを小説にして、仕上げました、でわ・・・お読み下さい・・・。「いつもの様に・・・そしてさようなら・・・」

コナンはいつもの様に朝を迎えました、いつもと変わらない、いつもの日々……。

蘭がいつもの様にコナンに、

「おはよう、コナン君。朝ご飯出来てるよ、目玉焼きで良かったかなあ？」

蘭の作った目玉焼きをいつもコナンは食べている日々もあまり変わってはいなかった。

小五郎が沖野ヨーコのテレビ番組を見ている事も全く変わっていない……、いつも全く

違う所は無かった。いつもの様に3人で蘭の作った朝ご飯を食べている、コナンはいつもの様に、

子供の様に可愛くスマイルの顔で、

「僕、蘭ねーちゃんの作ったご飯だーいすきだよ」

といつも言っている、蘭はいつもいつも

「コナン君、いつも有り難う。とても嬉しいわ」

嬉しがっている蘭にコナンは顔を赤くし恥ずかしがっていた、いつもと変わらないコナン。

いつもの様に7時30分です、蘭とコナンが家を出て学校に行く時間です。いつもと同じ様に、

2人は一緒に出る。出ると園子が待っていた、暇そうな園子の顔も変わっていなかった。

いつもの様に3人で登校した、するとまたいつもの様に。

「コナンー!!」

元太の声……後ろにはいつもと同じ様に光彦と歩美……そして……灰原。変わらない景色の

中で変わらない日々。いつもの様に帝丹小学校に行き、蘭と園子は帝丹高校に行く。

普通に授業を始め、家に帰る。今日は1人で帰る。博士の家に行く途中、服部から電話が掛かった。

「よおー！工藤、オレやオレー！！服部平次やー！今、お前のウチの隣りにスンドル、じいさんトコにおるんやー！来てくれへんか？？」

服部の声が五月蠅いのも変わっていなかった。服部の言う通り博士の家に向かった。

いつもの様にスリッパを履いて部屋へと向かった、すると優作や有希子も居た。

「あら、新ちゃん早かったわね・・・」

有希子は、目をデカくして吃驚していた様子だった。何をしに来たのか分らないコナンに、
優作は、説明した。

「実は、お前をやっぱり外国^{ムコウ}に連れて行き、3人で暮らす事にしようと、有紀子と

一緒に考えていたんだ。これ以上蘭くんに迷惑を欠けたくないだろう??お前もこれ以上その姿だと

困るんじゃないかと思ってな・・・どうだ??父さん達の事分ってくれたか??分つてなくても

分つて欲しいんだ・・・しばらく家に居るから答えが見つかったら父さん達に言ってくれ!!」

服部君もこの意見に賛成しているんだ!!」

「頼む」という顔をした。すると、コナンは考えた・・・・。

「分つた・・・でも、やっておきたい事があるんだ・・・、服部・・・手伝ってくれるか??」

灰原に頼んで、例の薬の解毒剤を、オレが飲む・・・蘭と和葉ちゃんとおれらで、どうか旅行

行って・・・蘭とおれが2人きりになったら、正体をバラすつてやつなだけだよ・・・

どーだ??服部・・・お願いだ!!これだけは頼む・・・お願い

いだ……」

そう言うと、皆吃驚して……目が点になった。すると、服部は、

「わかった……わかったで……んで、工藤何所イクンヤ??和葉にも聞いてみると

わからへんしなあ……、OKやったらメールするで!!ほんなら、オレ帰るわ!!

じゃ!!」

服部は帰った、すると優作と有希子は博士の家を出て、工藤家へと向かった。そして、コナンは

すぐに、灰原の居る地下室へと向かった。

効果音「コンコン」

ノックして、灰原に話しをしようとしたら、コナンは驚いた。そこにいたのはスルリと足が長く、

お尻がキュツと上がっていた……コナンの前には灰原哀ではなく、宮野志保だったのだ……。

「話しは聞こえていたわ……もう解毒剤は作ったわ……試作品ではなく、今度は本物よ。

明日、江戸川コナンで過して、明後日は工藤新一に戻してあげるわ……旅行の時は

気を付けなさい……」

そして、次の日

コナンは昨日の様に過した……すると、帰りに服部からメールが届いた……。

「よあ!!工藤!!和葉に旅行の件聞いたらだっちりOKやったで!!あとは、あのねーちゃん

だけやな!!!!そんなら、明日!!米花駅に、PM9時30分に旅行の準備して和葉と来るで!!」そして、コナンは工藤家に行き、優作と有希子に頼んだ、コナンの親の振りをしてくれと。

そして、すぐさま蘭の家に向かった、有希子は文代に変装し、蘭に

言った。

「蘭さん、今までコナンがお世話になりました、お詫びはこれで宜しいでしょうか？」

詰らないモノですが・・・受け取って下さい・・・」

蘭は悲しそうな顔をして、「有り難う御座います」と言った。涙を出すのを我慢していた蘭の顔が

歪んで見えた・・・。そして、コナンは新一の声で蘭に電話した・・・。

「蘭・・・明日、服部と和葉ちゃんと蘭とオレで旅行いくんだけど、行けるか??？」

行く場所は・・・愛媛県の薔薇野地縁（バラのちえんと読みます、実際にはありませんので・・・）

いくんだけど・・・ほら、前さあ蘭が行きたいって言ってただろ??？」

と、蘭の答えは・・・やはり・・・

「うん、行けるよ!!!お父さんに上手く誤魔化しとくから!!」

え、うん明日の午前9時30分

だね!!!分った!!!じゃあね!!!」

くそして次の日く

午前9時30分・・・

効果音「ピンポン」

すると、蘭が出てきた・・・

「新一!!!今まで、なんで会いに来てくれなかったの?!!」

全部、説明した新一は米花駅へと向かった・・・。

そして、ホテルに着くと・・・服部と和葉は部屋に向かった・・・

。新一と蘭は

エレベーターに乗っていた・・・。

「蘭、謝りたい事があるんだ・・・、さっき蘭のうちにいった蘭にいった事、

全部嘘だったんだ・・・実は・・・オレ・・・江戸川コナンだったから、今まで来れなかった。
それだけだ・・・」

「知ってた・・・新一がコナン君だって言う事・・・コナン君と初めて会った時から・・・」
そして2人はキスをした・・・。

終り

(後書き)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0359a/>

いつもの様に・・・そしてさようなら・・・

2010年12月26日02時24分発行